

# 平成28年度 沖縄県振興審議会 第2回産業振興部会議事要旨

平成29年2月9日（木）13：30～16：20  
ネストホテル那覇2階ベガ

## 1. 議題【第3章関連（前回審議を踏まえた新たな改正案の審議、前回審議事項に関する追加意見の審議、第3章未審議箇所に係る意見等の審議）】

### (1)【将来象1-(5)-イ 伝統工芸品等を活用した感性型ものづくり産業の振興】 について

- ①伝統工芸品等を活用した感性型ものづくり産業の振興に対する県の取り組みが多々実施されていることを評価しているが、工芸事業者の経営基盤が脆弱である状況を踏まえた場合、産業（製品・商品）として競争力を高める観点に加え、美術品の制作を施策とする観点を付加できないか。

### (2)【将来象3-(3)-イ 県内企業の高度化・多様化】について

- ①IoTの実証実験を行う企業へ研究開発支援の取組みを行い、企業及び人材の育成を同時に図る記載が必要。

### (3)議題【将来象4-(1)-ア 国際ネットワークの形成と多様な交流の推進】 について

- ①海外企業が県内への投資、立地を検討する際、すべてを受け入れるだけでなく、規制も必要となるのではないか。

### (4)議題【将来象4-(2)-ア アジア・太平洋地域の共通課題に対する技術協力 等の推進】について

- ①沖縄及びハワイで培った島しょ型エネルギー技術は、大陸の内陸部（いわゆる陸の孤島と呼ばれる地域）においても必要な技術とされ、その技術移転が強く望まれていることから、対象を“島しょ地域での”と限定せず、広くアジア全域を対象とした幅広い表現にするべき。

## 2. 議題【第5章関連（北部圏域、中部圏域、南部圏域、宮古圏域、八重山圏域）】

### (1)【南部圏域】について

- ①【展開の基本方向】の中にアジア経済戦略構想の5つの重点戦略の一つで

ある「航空関連産業」を明記すべき

**(2)【宮古圏域ウー(ア) 観光リゾート産業等の振興と産業イノベーションの推進】について**

①離島地域では、各分野における専門的な技術や知識を習得する機会が限られており、島外との人材交流により、製品づくりの企画開発や研究、技術習得の機会を増やし産業の高付加価値化を進める担い手の育成を図っていく必要がある。

**(3)【八重山圏域イー(ア) 観光リゾート産業等の振興と産業イノベーションの推進】について**

①離島地域では、各分野における専門的な技術や知識を習得する機会が限られており、島外との人材交流により、製品づくりの企画開発や研究、技術習得の機会を増やし産業の高付加価値化を進める担い手の育成を図っていく必要がある。

**3.その他**

**(1)【将来象 3-1(1)-エ 国際ネットワークの構築、移動移送コストの低減及び物流対策強化】について**

①現在、台風対策として本土初の航空機に往復分の燃料を積む「タンカリング」が実施されており、空港第2滑走路供用で航空便の増加が見込まれる中、燃料貯蔵施設の増設が必要であると関係者から指摘されている。

**(2)【将来象 3-1(2)-ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立】について**

①関税免除となる日本で唯一の沖縄型特定免税店制度の中間評価が具体的に示されていない。店名も DFS から変更されており、外国人の入客が増加して消費税が免税される TAX FREE が増加している中、沖縄型特定免税制度の活用についてどのように推進する展望があるか具体的表現が必要である。

**(3)【将来象 3-1(2)-エ 観光客の受入体制の整備】について**

①空の玄関口である那覇空港について、観光客の増大に対応できるよう那覇空港の旅客ターミナルビルをつなぐ連結施設の整備を着実に進めていく必要がある。また、沖縄らしい魅力的な空間演出（インテリア／デザイン性）が必要である。

**(4)【将来象 3-1(8)-イ 商店街・中心市街地の活性化と商業の振興】について**

①新たな商業地の形成においては、市町村の意向だけでなく、需要のバランス、地域中小企業の意向、沖縄らしい景観、広域的な都市構造を踏まえて適正配置に努める必要がある。

②都市計画の観点から、那覇から名護の高速鉄道は15年、20年かかるわけですが、フィーダーという交通を整備しないといけないという中で、MICEが2020年にできたり、那覇空港が第2滑走路が20年にできるので、今から五、六年後までには那覇からMICEのところまでLRTを導入できないか。

**(5)【将来象 3-(11)-ウ 交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化】について**

①航空需要の増大等の対策はエプロン拡張整備に限定されたものではなく、例えば新石垣空港の国際ターミナルの拡張等も計画されているため、エプロン拡張整備等としたほうがよい。

**(6)【中部圏域ア-(ア) 人的・物的交流拠点の機能強化】について**

①産業廃棄物の物流というところも課題にあるかもしれないが、県において中城湾港のリサイクルポートの活用について課題形成が必要ではないか。

②国土交通省によるクルーズ船拠点港として、本部港、宮古の2港が指定されたが、中部は中城湾港が指定されることを相当期待していたが、計画に入らないと新聞に載っている。ぜひ中城湾港も拠点港として指定していただくように要請活動等を実施していただきたい。

**(7)【中部圏域イ-(ウ) 臨空・臨港型産業の振興と産業イノベーションの推進】について**

①既に飽和状態にある那覇港を中城湾港と相互補完することによって、中南部の総合的な物流機能を向上させる必要があるのではないか。

②沖縄県の第2都市であるというのが不思議なくらい、住民はたくさんいるはずだが、なかなか地域の経済が発展していない。

**(8)【宮古圏域】について**

①下地島空港及び周辺用地の利活用事業が実施予定であるため、記載する必要があるのではないか。

②沖縄で生ごみのリサイクルは進んでないが、宮古島市では燃えるごみに入れられないようにして、生ごみを回収し堆肥工場に運ぶという仕組みができています。その間にメタン発酵というものをに入れて、エネルギーと熱を回収することで、リサイクルのモデルとなるのではないか。

以上